

関係者各位

2015年8月3-7日に予定されております、第17回世界経済史会議京都会議の開催につきましては、日頃から多大なご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

本会議におきましては、経済史および関連分野について近年提出されました優秀な博士論文の顕彰も企画されております。賞は、近世部門（1800年以前）、長期の19世紀部門（1800-1914年）、20世紀部門（1914年から現代）の三部門に分かれて審査されます。国際経済史協会（IEHA）の理事からなる審査委員会が事前審査を行い、各部門3名から4名の最終候補者が選出され、2015年の京都大会におきまして、候補者自身による報告の後に、各部門の受賞者が決定されます。審査対象者は、2011年1月1日から2014年9月1日までに博士号を授与された者となっており、すでに、大会ウェブサイト上では公募が開始され、本年7月31日が応募締切となっております。

http://www.wehc2015.org/scientificprogramme-call_for_dissertations.htm
!

応募に際しましては、A4で10ページから20ページの英文でのサマリーが必要ですが、博士論文自体はどの言語で書かれたものであっても審査対象となります。また、2011年1月1日以降の博士号授与者が対象ですので、すでに常勤職をお持ちでも対象になる方は多いかと思えます。

博士論文本体の対象言語が英語に限定されていないという点につきまして、是非ともご周知いただき、日本人若手研究者の皆さんの積極的な応募を促していただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

岡崎哲二

第17回世界経済史会議

国内組織委員会 委員長